

---

# 玉野の色

プチメタボ

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

玉野の色

### 【Nコード】

N1527F

### 【作者名】

プチメタボ

### 【あらすじ】

横浜からど田舎のへやってきた青年がその地を愛するようになる過程が綴られた随筆です。

私が初めて玉野にやってきた時は

これまでに経験したことのない田舎っぷりにひどく驚いた。

更に岡山弁の「おえん」の意味を理解するまでに数ヶ月を要した。

寮に入ってすぐの頃、食堂のおばちゃんが声を掛けてきた。

私にご飯を盛ろうとした時に炊飯器の釜を替えようとしていたからだ。

「あ、おえんおえん、お兄ちゃん、今みてつとーからちーと待ちいや。」

「おえん」と「みてる」二つも分からない言葉出てきて意味不明であつた。

私が思わず聞き返した言葉は

「すみませんが、どういう意味ですか？」

普通ならば「おえんてどう意味ですか？」などと分からなかった言葉のみを

聞き返すと思うのだが、当時の私には何を言ったのかすら聞き取れなかったのである。

標準語の横浜にいた私は同じ国内でこのような大きな言葉の壁に出くわすとは夢にも思わなかった。

それから4年半。今ではすっかり岡山弁に染まってしまった。

「おえん」「いらつ」「てごーする」「ぼっけー」「じゃろー」「じゃけん」「ろーが」「してーよ」「しねー」

などなど覚えた方言はかなり多数に上る。

使う言葉もかなり増えてきた。そして今では全く違和感も無い。

「住めば都」という諺があるが、全くその通りで

今ではインターネットの普及も手伝って玉野の不便さを感じることも少ない。

当初の半年間は休日のアマリの静けさに気が滅入って生きた心地がしなかった。

それがいつの日か見慣れぬ景色が見慣れた景色になり、  
気付いてみるとすっかり玉野市民となっていた。

天満屋玉野店が次第に便利なデパートに感じつつある。

横浜からすればなんてちっぽけな店だという感覚を覚えるはずだが、  
洋服以外のほとんどの日用雑貨は天満屋で揃ってしまう。

人間も動物も自然に環境に適応して生きていくものだなと感じる今日この頃である。

無意識のうちに体がその地に慣れてくれることは大変歓迎できる能力である。

次はどの地に行くのだろうか？

何年かして結婚することにでもなれば、岡山か倉敷辺りに体が保護色していくのであろう。

次の地がまた楽しみだと思いつつ玉野の色を満喫した夜だった。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n1527f/>

---

玉野の色

2010年10月28日03時22分発行